

大学・企業連携による ICT 導入・活用事例紹介

日時：9月7日（水）12:30～17:00 ／ 9月8日（木）10:00～17:30 会場：5F 廊下

No.	導入事例	大学	協力企業
1	関東学院大学における CALL システム導入と運用事例	関東学院大学	チエル(株)
2	メディアブレンディングに基づく教育支援サービス事例	東京工科大学	富士ゼロックス(株)
3	Blackboard で構築した教職カルテシステム導入事例	帝京大学	(株)CSK
4	教職課程におけるポートフォリオシステム ～「教職ログブック」manaba folio の活用事例～ ポートフォリオによるアカデミックプランニング	慶應義塾大学／ 国際基督教大学	(株)朝日ネット
5	電子黒板システムの導入事例	千葉経済大学	シャープシステムプロダクト(株)
6	学習設計支援システム導入事例	県立広島大学	(株)日立製作所
7	LMS とポータルサイトの連携による ICT 教育基盤の全学的導入事例	北海学園大学	(株)富士通
8	セキュリティを重視し学内運用する Web メール導入事例	工学院大学	(株)トランスウエア
9	e-キャリアサポートシステム(「校友サポートねっと」 e-キャリアサポートフォリオ)	龍谷大学	日本電子計算
10	『大阪体育大学における提出物の管理とその活用』 ～ドキュメントスキャナーと「Grow One eポートフォリオ」を 使用して～	大阪体育大学	(株)ニッセイコム
11	コース管理システム dotCampus 活用事例	神奈川大学／ 神戸学院大学	インターレクト(株)

●事例内容

No. 1 関東学院大学における CALL システム導入と運用事例

関東学院大学／チエル(株)

関東学院大学では、2011 年 3 月に、全キャンパス（5 学部）統一でチエル株式会社の CALL システム「CaLabo EX」を 7 教室導入し、4 月から運用を開始しています。これまで、システムの選定は各キャンパス・学部単位で行っており、導入時期もキャンパスごとにまちまちでしたが、全キャンパス統一でシステムを選定し、時期をあわせて導入したことにより、導入時・運用面でメリットがありました。事例として具体的に紹介するとともに、今後の展望についても紹介します。

No. 2 メディアブレンディングに基づく教育支援サービス事例

東京工科大学／富士ゼロックス(株)

昨今の ICT 化の進展に伴い、大学では講義、ゼミで PC を利用する取り組みも増えてきました。紙メディアと比べると「説明がわかりやすい」「フィードバックが受けられる」等のメリットがある反面、「集中しづらい」「採点、添削に時間がかかる」「テストは記述式が中心」等の問題が起こります。そのため、紙と電子メディアのそれぞれの長所を融合する教育環境が必要となります。本事例は、この問題を解決し、教員と学生のインタラクション密度の向上を目指して、東京工科大学・富士ゼロックスが共同研究したシステムです。システムとしては、読み書き・採点は紙メディア、配布・返送は電子メディアを活用して個別フィードバックを実施するものです。

これにより、下記効果を生み出しています。

1. 教員と学生の One To One コミュニケーション強化／2. 学生の講義に対する姿勢・満足度の向上／3. 様々な教育・学習形態に対応させた自動集計を実現

No. 3 Blackboard で構築した教職カルテシステム導入事例

帝京大学／(株)CSK

会場にて説明させていただきます。

No. 4 教職課程におけるポートフォリオシステム「教職ログブック」manaba folio の活用事例～

慶應義塾大学／(株)朝日ネット

ポートフォリオによるアカデミックプランニング・国際基督教大学／(株)朝日ネット

国際基督教大学／(株)朝日ネット

クラウド型ポートフォリオシステムの manaba folio は様々な学びを支援します。

慶應義塾大学では教職課程の支援をしています。オンラインで遠隔地でもやりとりができるようになったため、キャンパスが異なる教職課程履修者、教職課程関係者とも時間と場所を問わずコミュニケーションをとることが可能となりました。これを基に、限られた空間ではなく、より多くの教職関係者による「相互閲覧」「履修カルテ」に取り組んでいます。

国際基督教大学ではアカデミックプランニングの支援をしています。2 年最終学期に専攻を決めるにあたり、manaba folio を用いて、学生は入学前から各学年ごとに「学びの目標」をエッセイとしてまとめ、教職員はエッセイを参照しながら学習計画に関する相談に応じます。エッセイやアドバイスの記録をポートフォリオとして蓄積することで、効率的なアカデミックプランニングを実現しています。

No. 5 電子黒板システムの導入事例

千葉経済大学／シャープシステムプロダクト(株)

会場にて説明させていただきます。

No. 6 学習設計支援システム導入事例

県立広島大学／(株)日立製作所

大学では「学生の社会的・職業的自立に繋がる就業力の育成」のために、学生自らが「学び」「育ち」に対して目標意識をもって臨める環境が必要となっています。県立広島大学では、2011 年に学習設計支援システム「UNI PROVE/LE」を導入しました。「UNI PROVE/LE」は、学生カルテ・ポートフォリオ機能を融合し、学生・教職員の学習設計を支援しています。

No. 7 LMS とポータルサイトの連携による ICT 教育基盤の全学的導入事例

北海学園大学／(株)富士通

北海学園大学では、これまで学部や施設ごとに LMS を導入していたため、全学生に対するサービスに一貫性が欠けており、そのた

めに教育的、事務的な負担も大きなものでした。そこで、全学統一の ICT 基盤システム (LMS・ポータル) の導入による教育の充実、それを支える「学習支援体制」の強化充実が、この数年間の二つの大きな課題でした。その実現のために、教育用コンピュータ実習室へのシンクライアントの導入 (2005 年、富士通製品) を手始めに、2006 年度より全学で検討を重ね、次期の新しい LMS は既に導入を決めた富士通製のポータルシステムとのスムーズな一体感を利用者が感じってくれるシステムを目指しました。そのため、これまで実習室システムで大学側の要望実現に大きな貢献を示してくれた富士通 (株) 製品を検討することになりました。こうした過程で、2010 年 10 月ポータルサイト (G-PLUS!) を始動し、2011 年 4 月全学統一 LMS(GOALS)の稼働を開始しました。その結果、両システム間の SSO やメッセージ連携により、授業での利用ばかりではなく、事務的な連絡等でも、教職員と学生の相互間で、“時と場所”を選ばないサービス環境の授受の実現が可能となりました。また全学的に待望されていた「支援体制」は、新しい事務組織として「学習支援システム課」が全学的な支援により立ち上がり、その中でも「LMS ヘルプデスク」によるサポート充実が今後は期待されています。現在、LMS 導入後 5 か月が経ち、専任教員の利用率は約 43% (225 名中 96 名) と順調な滑り出しで、教員による授業実践や学生参加にも目覚ましい変化が見られています。また、後期からの利用を予定している教員も 30% 近くおり、年度内には全学利用率 70% を超えると予測しています。今後、利用率の向上に伴い教員や学生からの要望も多様化してくると思われ、導入ベンダーである富士通(株)と教育現場とのタイアップによる運用面、機能面での充実が一層期待されています。

※ポータルサイト (G-PLUS!) は富士通「Campusmate/Portal」を採用 / LMS(GOALS)は富士通「CoursePower」を採用。

No. 8 セキュリティを重視し学内運用する Web メール導入事例

工学院大学／(株) トランスウェア

工学院大学では、約 9,000 名規模の全学で Active! mail を使用しており、そのうち大学院、大学では、2010 年 8 月から最新バージョンの Active! mail 6 へバージョンアップし利用しています。同大学では、いわゆるクラウド型の無償の Web メールの使用については、メールアドレスをどのように利用されているかが不明というセキュリティ面の不安から方針として採用しないと選択。既存サーバーへの導入も楽に行うことができ、IMAP でデータを学内で一元管理ができ安心などの点から Active! mail 6 を採用し、メールサーバー 2 台、Active! mail 6 がインストールされた Web サーバー 2 台という冗長構成で、全て学内にて運用がされています。

No. 9 e-キャリアサポートシステム (「校友サポートねっと」「e-キャリアポートフォリオ」)

龍谷大学／日本電子計算

「校友サポートねっと」学生のキャリア形成に関する悩みや疑問点の解決手段として、校友 (卒業生) が学生をサポートするシステムを Web 上に構築。

「e-キャリアポートフォリオ」学生自らの将来設計を明確にするキャリアプランニングを行うため、学生が自分の長所や能力、目標などの情報を毎年登録します。それに対し、ゼミ担当教員、キャリアコーディネータ等が、適切なキャリア支援、評価、見直しができるシステムを Web 上に構築。

共通機能として、教学データ等の取り込みも可能であり、学生ポートフォリオシステムとしても活用可能です。

No. 10 『大阪体育大学における提出物の管理とその活用』 ～ドキュメントスキャナーと「Grow One e ポートフォリオ」を使用して～

大阪体育大学／(株) ニッセイコム

大阪体育大学では、その他多くの大学・教育機関と同様に、学生の授業レポートやアンケートに大量の紙を用いています。しかし、その量ゆえに、その管理には非常に大きな労力が掛っていました。

この問題点を解決するため、同大学では高速ドキュメントスキャナーと「GrowOne e ポートフォリオ」を有機的に組み合わせたシステムを導入しました。これにより、紙資料の管理コストの削減以上の効果を得ることができました。

今回は、本システム導入までの経緯や導入後の運用、今後の活用計画などについてご紹介いたします。

< 主な導入効果 >

・ 現行授業方法の維持 / 提出物を回収・採点・返却する労力の削減 / 提出物の紛失トラブル防止 / ・ 成績を管理する労力の削減

No. 11 コース管理システム dotCampus 活用事例

神奈川大学・神戸学院大学／インターレクト (株)

< 9 月 7 日 神奈川大学 dotCampus 全学導入により雑務の効率化 >

神奈川大学では、多種類のシステム利用により作業が煩雑だったことから、学内のシステム統合を目指し、2009 年 4 月から全学で dotCampus を導入しました。月間ユニークユーザー数は、導入初年度の 4,000 名から、現在では 10,000 名に増加し、携帯向けツールを含め多くの機能を積極的に活用しています。その結果、雑務の作業効率が大幅にアップし、教員は、本来必要な教育に多くの時間が使えるようになりました。

< 9 月 8 日 神戸学院大学 dotCampus で活気ある講義を実現 >

神戸学院大学では、2003 年から薬学部を中心に dotCampus を導入し、徐々にシステムが定着、月間ユニークユーザー数は 3,500 名に増加しました。現在も着実にユーザー数が増え続けています。相互コミュニケーションツールとして積極的に活用し、学生からのフィードバックを講義改善に取り入れ、学生参加型の活気ある講義が実現しています。